

トンネルの向こう

あれは確か5年生の頃だった
幼い近所の友と歩いてた
初夏の眩しい光が見えていた
できたばかりのトンネルの向こう

あかりもついてなく舗装も終わっていない
しばらくそのまま工事もしない
暑い夏の日を心身ともに涼しく
ふざけ合って怪談しながら

後ろを見ないで足早に
暗いなかをひたひた歩く

僕ら以外の見えない誰か後ろから
ずっと追いかけているような音がする
かなり前のことだけど鮮明に
こんなところはもう一人では歩けない

しばらく歩いてトンネルの向こうまで
大きくなってきたかまぼこの形
切り取った空と緑の風景のなか
見えてきた棒は電柱なのか

天井に見えてる白いシミが気になる
傍に落ちてる袋も気になる
暑い夏の日を心身ともに涼しく
たくさん歩いて疲れたはずなのに

やっと近づく向こうの風景
辿り着いたら普通の景色

僕ら以外の見えない誰か後ろから
いつの間にか遠ざかったような気がする
かなり前のことだけど鮮明に
こんなところはもう一人では歩けない